

# 第6章

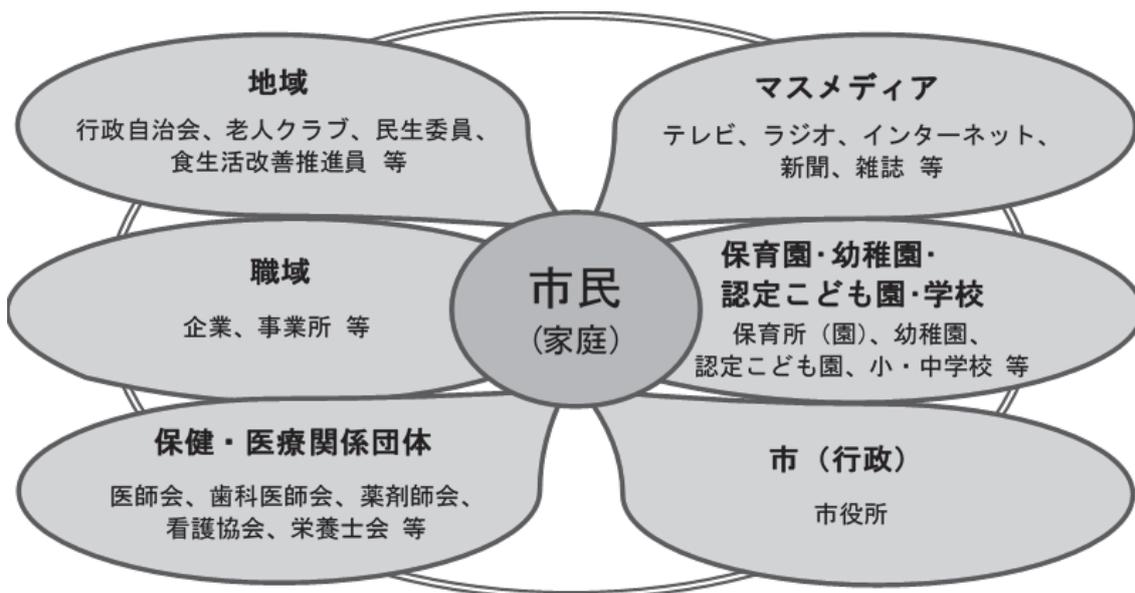
## 計画の推進

# 第6章 計画の推進

## 1 計画の推進体制

「誰もが健康で生きがいもち 笑顔あふれる古河」を基本理念とし、市民一人ひとりが「自分の健康は自分でつくる」という考えのもと、健康づくりに取り組んでいくことが大切です。

本計画の推進にあたっては、市民、地域、職域、保健・医療関係団体、マスメディア、保育園・幼稚園・認定こども園・学校、市（行政）等がそれぞれの役割を確認し、相互の連携や協働により推進していくものとします。



### (1) 市民の役割

一人ひとりが、健康で生きがいのある毎日を送るという意識をもって行動し、健康診査・がん検診等の受診や健康づくりに関する事業、地域活動などへ主体的に参加していくことで、健康づくりに取り組んでいきます。

### (2) 地域の役割

住み慣れた地域の中で、健康で生きがいのある生活が送れるよう、行政自治会等が地域ごとの健康課題に応じて主体的に健康づくりに取り組んでいくことが求められています。また、地域で活動する様々な団体（スポーツ、文化・芸術活動、福祉等）と連携し、市民一人ひとりの健康づくりを支援していきます。

### (3) 職域の役割

働く人（特に青年期から中年期）にとって職場は、家庭に次いで一日の大半を過ごす場になります。職場における健康管理は、そこで働く人の活力や生産性の向上だけでなく、職場の価値を高めることにもつながります。市（行政）等と連携・協働し、健康で働ける環境づくりを推進していく必要があります。

#### (4) 保健・医療関係団体の役割

従来からの病気の治療に加え、健康を増進し病気を予防していくために、高度な知識や技術をもって市民の健康づくりを支えていくことが期待されており、また多職種それぞれが専門性を活かし健康づくりに取り組んでいくことが求められています。

#### (5) マスメディアの役割

マスメディアは、あらゆる年齢層に多くの情報を迅速に伝えることができ、多様な情報の入手源として大きな役割を担っています。そのため、健康づくりに関して科学的根拠に基づいた正確な情報や市民が必要とする情報の伝達等、健康づくりの啓発活動が期待されます。

#### (6) 保育園・幼稚園・認定こども園・学校の役割

乳幼児期から思春期の子供たちが、家庭に次いで多くの時間を過ごす場所であり、社会生活の基礎や望ましい生活習慣を身につける上で重要な役割を担っています。そのため家庭や地域と連携し、生涯にわたる健康づくりの意識と行動を育む場となることが求められています。

#### (7) 市（行政）の役割

本計画を市民に広く周知するとともに、地域の関係機関等と連携・協力し、保健・医療・福祉、生涯学習、学校教育、生活環境部門等が各施策に沿って市民一人ひとりの健康づくりの支援に取り組みます。

## 2 計画の管理

6つのライフステージ別に分野ごとの目標を設定することにより、基本理念である「誰もが健康で生きがいをもち 笑顔あふれる古河」を目指します。また生活の質の向上、社会環境の改善を図り、健康寿命の延伸と健康格差の縮小に取り組めます。

そして、評価指標に掲げる目標値や計画の推進に関する進捗状況などを経年的に確認・評価し、総合的かつ効率的な計画推進（PDCAサイクル）を図ります。

